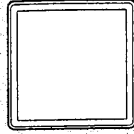


MITSUBISHI

販売店・工事店さま用

ダクト用給気送風機 居間・事務所・店舗用

形名
VD-23ZQ5-W (低騒音着せ替えインテリアパネル)



取付工事説明書

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です。必ずお渡してください

正しく安全に取付けて、お使いいただくためにこの説明書を必ずお読みください。なお「安全のために必ず守ること」は取付工事前、および使用上大切なことですので必ず事前にご確認ください。

- 取付工事、壁穴工事、電気工事はお買上げの販売店または専門の工事店さまが実施してください。
- この製品には市販の埋込みスイッチ、またはシステム部材のコントロールスイッチが必要です。その他屋外フード等は三菱電機換気送風機カタログより別途ご用意ください。
- 接続ダクトは外形寸法図に示すダクト径の鋼板管、アルミフレキシブルダクト、塩化ビニル管のいずれかをご用意ください。

形名によって取付工事が異なりますので、予めご使用の形名をご確認ください。

形名確認
グリル表面に貼り付けてあります



1.安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しています。

警告	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
注意	誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

●図記号の意味は、次のとおりです。

禁	止	水場での使用禁止
水ぬれ禁止	指示に従い必ず行う	
分解禁止		

警告	●ガス漏れに気付いたときは、送風機のスイッチの入・切をしない 爆発や引火の恐れがあります
	●製品を水につけたり、水をかけたりしない ショートや感電の原因
	●改造や工具を必要とする分解はしない 火災・感電・けがの原因
	●交流100Vを使用する 火災や感電の原因
	●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取付ける 漏電した場合発火の原因

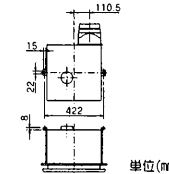
注意	●直接炎のあたる恐れのある場所や油煙・有機溶剤のある場所には取付けない 火災の原因
	●浴室など湿気が多い場所には取付けない 感電および故障の原因
	●本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実に 落下によりけがの原因
	●部品の取付けは確実に 落下によりけがの原因
	●取付の際は必ず手袋を着用する けがの原因
	●配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に 接続不良や誤った配線工事は感電や火災の原因

4.取付方法

- 取付手順例
- 取付け前の準備
- ダクト工事
- 本体を吊る
- 軽量鉄骨を組む
- 本体の固定
- 天井材を張る
- グリルの取付け
- 試運転

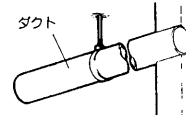
1 取付け前の準備

- 取付位置・壁給気穴位置を決めます。
- 吊りボルトを埋込みます。
図を参照してあらかじめ市販の吊りボルト(M8)を埋込みます。



2 ダクト工事

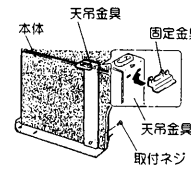
- 壁給気穴から本体のダクト接続口位置までダクト配管をします。
- ダクトは本体に力が加わらないよう天井より吊るしてください。



3 本体を吊る

(野線を使用する場合は a を参照してください)

- 1 天吊金具(システム部材)を取付けます。
(1)固定金具を天吊金具の角穴に差込みます。
(2)天吊金具を本体に引掛けて内側より取付ネジで固定します。

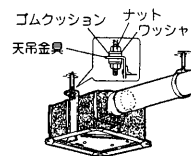


お願い

- 固定金具を天吊金具に確実に差込んでください。

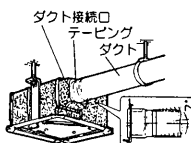
2 本体を吊ります。

- 本体が水平になるよう、天吊金具を吊りボルトに取付け、市販のワッシャー・ナットにて確実に固定します。



3 ダクト接続口とダクトを接続します。

- ダクトをダクト接続口をしっかり差込んで風漏れのないようテーピング(市販品)してください。
- 塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。(全方向?)



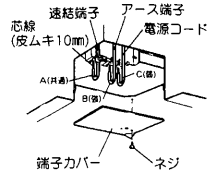
ご注意

- 結露防止のため、本体から壁面までの給気ダクトには必ず断熱処理をしてください。

4 電気工事

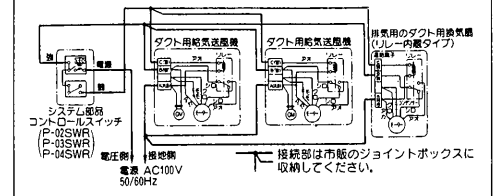
●専門の電気工事店へ依頼し、電気設備技術基準に基づいて行ってください。

- (1)本体上部のゴムブッシュより電源コード(屋内配線VVFケーブルφ1.6、φ2)を通します。
- (2)端子カバーのネジ1本を外して端子カバーを開け、連結端子に皮ムキした芯線を確実に奥まで差込みます。(結線図参照)
- (3)端子カバーを元通り取付けます。



■結線図 太線部分を結線してください。

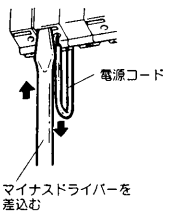
排気用のダクト用換気扇(強制付)と連動する場合……
給気送風機2台と排気用のダクト用換気扇1台の場合



●寒冷地など氷点下で運転される場合は排気と給気それぞれ専用のスイッチを設けてください。連動運転ではフィルターが凍結する恐れがあります。

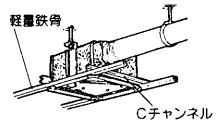
ご注意

- より線を結線する場合は、棒状圧着端子(市販品)をより線に取付けてから連結端子に確実に差込んでください。
- 電線被ふくは10mmむいてください。本体にあるストリップゲージに合わせて、皮むきしますと便利です。
- 電源コードは、接続部に力が加わらないよう本体付近で約150mmたるませてください。
- 電源コードを連結端子より外す場合は、マイナスドライバーで連結端子の外しボタン(赤色)を押しながら電源コードを引っばって外してください。



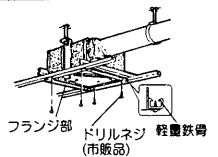
5 軽量鉄骨を組む

軽量鉄骨と開口部補強用のCチャンネルで右図のように組みます。



6 本体の固定 (メンテナンスができるよう固定)

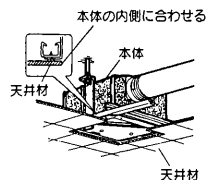
本体フランジ部の取付穴を利用して市販のドリルネジ(4本)で軽量鉄骨に固定します。



7 天井材を張る

天井材を張ります。

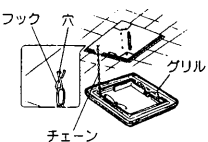
- 本体の内寸法に合わせて、天井材に角穴を開けます。



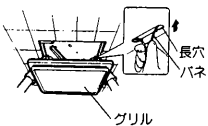
8 グリルの取付け

グリルを取付けます。

- (1)グリルの給気口側を確認後、グリルにチェーンが付いているのでフックを本体の穴に右図のように引掛けます。



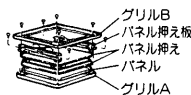
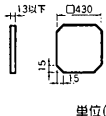
- (2)グリルには、2つのバネが付いているので両手でバネをつかみ本体内部の長穴に差し込み、手を放し軽くグリルを押しつけて天井材に密着させます。



グリルと天井材を合わせる場合

グリルと天井材が同一で見えの良い取付けかたです。

- 1.天井材を切断します。
- 2.グリルを分解します。
- 3.天井材とパネルを入換えて、天井材の厚みに応じてパネル押さえを付着させ、パネル押さえを付着させ、パネル押さえ、パネル押え、パネル押え、パネル押えを付着させます。



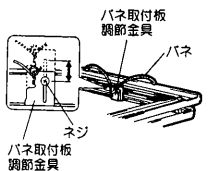
ご注意

- 天井材は厚さ13mm以下のものを使用してください。
- 天井材は重いもの・われやすいものは避けてください。(2.0kg以下)

グリルと天井材の間にすき間がある場合

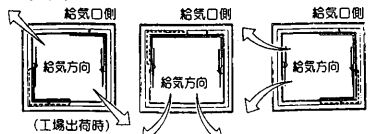
グリルのバネが本体の長穴に届かないときはバネ取付板調節金具の長穴分をスライドさせて調節します。

- ネジをゆるめ天井材の厚みに応じてスライドさせネジを締めて固定します。左右同一の調節をしてください。
- 天井材とグリルの間にすき間がないことを確認してください。

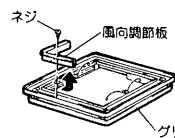


給気吹出方向を変える場合

給気による肌寒さをやわらげるために、グリルの風向調節板の位置を変えることで給気方向を3通に変えることができます。



※吸気口側は固定されていますので位置を変えたり、外したりしないでください。



- 1.風向調節板のネジ(1本)を外します。
- 2.給気方向を決め、外した風向調節板をグリルの穴に合わせネジ(1本)で締めます。
- 3.給気側に風向調節板がくることを確認してグリル本体に取付けます。

9 試運転

取付工事が終わりましたら次の確認をしてください。

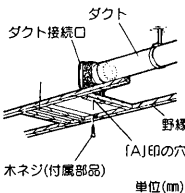
- 1.コントロールスイッチにて正常な運転ができますか？
- 風は強・弱に切り換わっていますか？
- 2.振動・異常音はありませんか？

別途取付要領

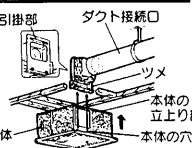
a 野縁に取付ける場合

野縁の強度が十分でない場合は天吊金具を使用して本体を吊るしてください。

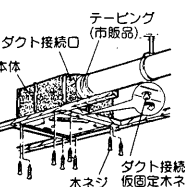
- (1)下図のように天井の野縁と補助野縁で取付枠を組みます。
- ダクト接続口を取付ける野縁は45mm以下でないことと取付けることができません。
- (2)本体よりダクト接続口を引き抜いて外します。
- (3)ダクト接続口を野縁に取付けます。
- ダクト接続口を壁排気穴に向くようにして野縁の角の直角に合わせてすき間がないように付属の木ネジ(1本)で仮固定します。(「A」の印の穴を使用します。)



- 本体を野縁にそって差込みます。
- 本体の穴とダクト接続口の内のツメ及び、本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまり込むように本体とダクト接続口を接続します。



- (1)本体を固定します。
- 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の木ネジ(8本)で本体をすき間のないようしっかり固定してください。(すき間があると風漏れの原因になります)
- (2)ダクト接続口を仮固定している木ネジ(1本)を締めます。
- (3)風漏れのないよう市販のアルミテープ等でダクト接続部をテーピングします。



4 電気工事

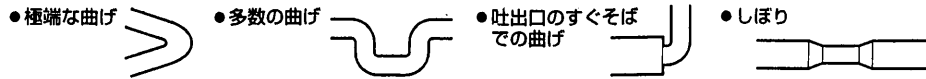
お願い

取付け

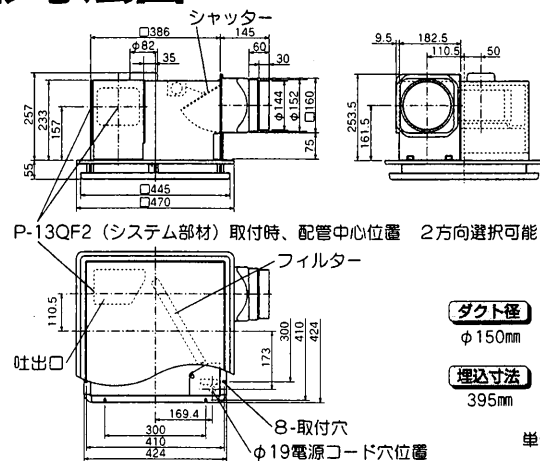
- 高温(40℃以上)になると取付けないでください。(高温では、温度ヒューズが溶断して使えなくなります。)
- 外気が汚れている場所には取付けないでください。
- ダクト用システム部材の使用については、地区により異なる規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。
- 効果的な換気が行なえるよう、排気用の換気扇との併用をおすすめします。

天井・ダクト工事

- 天井板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 給気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の傾斜をつけてください。
- 給気ダクトの先端には、鳥などの侵入を防ぐためのペントキャップ(システム部材)または、雨水などの浸入を防ぐための深形フード(システム部材)などを取付けてください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。(風量低下や異常音発生の原因になります)



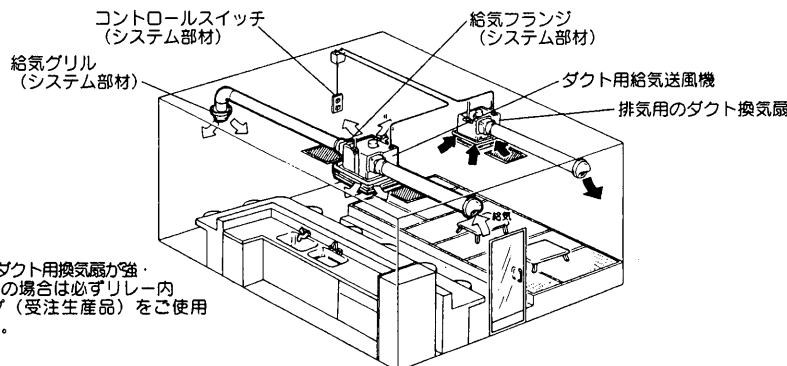
2.外形寸法図



付属部品

- 木ネジ.....9本
- 天吊金具.....2セット

3.システム例



※排気用のダクト用換気扇が強く、弱付機種の場合は必ずリレー内蔵タイプ(受注生産品)をご使用ください。